様式３

会　　議　　録

<table>
<tr><td colspan="2">会議名
（審議会等名）</td><td colspan="3">第２回　中山間地域医療検討会</td></tr>
<tr><td colspan="2">事務局
（担当課）</td><td colspan="3">医療政策課　　電話０４２－７６９－９２３０（直通）</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催日時</td><td colspan="3">令和６年８月６日（火）　１９時００分～２０時３０分</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催場所</td><td colspan="3">ウェブ開催　及び　相模湖総合事務所３階３Ａ会議室</td></tr>
<tr><td rowspan="3">出席者</td><td>委　員</td><td colspan="3">１４人（別紙のとおり）</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="3">０人</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td colspan="3">８人（保健衛生部長、医療政策担当部長(兼)医療政策課長、
津久井高齢・障害者相談課長、地域医療対策室長、
在宅医療・介護連携支援センター所長　他４人）</td></tr>
<tr><td colspan="2">公開の可否</td><td>■可　□不可　□一部不可</td><td>傍聴者数</td><td>０人</td></tr>
<tr><td colspan="2">公開不可・一部不可の場合は、その理由</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">議　題</td><td colspan="3">１　開会
２　会長あいさつ
３　議題
（１）訪問型オンライン診療実証事業について
（２）診療所の再編に向けた取組について
（３）検討会の進め方について
４　閉会</td></tr>
</table>

議　事　の　要　旨

１　開会

開会に先立ち、石橋委員から自己紹介があった。

（石橋委員）藤野地区地域ケア会議地域づくり部会を代表して参加している。医師をしており、病院勤務を１２年行い、在宅医療、在宅緩和ケアに取り組んで１９年目である。こうした立場から、中山間地域の新しい医療というものが少しでもより良い方向に行けるように協力ができたらと考えている。

２　会長あいさつ

３　議題

（１）訪問型オンライン診療実証事業について

事務局より資料に基づき、説明した。

（石橋委員）実証事業において、患者の居室には持ち込めない、訪問車両の中でしか使用できない医療機器はあるか。

（事務局）特にない。

（石橋委員）今回の検討会は地域にとってより良い医療をつくるために意見交換することが目的であり、なるべく赤字を減らそうという視点も必要だと思っているが、今回の実証事業は採算性を考えているか。

（事務局）医療機器や車両、運転士の準備等は市で行っており、オンライン診療の支援者として診療所の看護師が同行している中で、収入と支出のバランスについては課題の一つと考えているが、今回は資料として提示できていない点である。次回以降にお示ししたい。

（石橋委員）車両が本当に必要なのかと思ったのが一つと、看護師が同行する点は保険算定としてはベースが取れないので、経営を考えたときにトータルメリットがないと難しいシステムだと思っている。

（青山会長）実証事業において、患者の居室で診療を行った例はあったか。

（事務局）あった。

（青山会長）診療を車内で行う場合と患者の居室で行う場合とで何か違いはあったか。

（事務局）診療の内容に違いはなかったが、一部の患者から「居室には入ってほしくない」という意見はあった。

（青山会長）通信状況にも課題があったとのことで、改善策の案は何かあるか。

（事務局）次回以降にお示ししていきたい。

（金子委員）オンラインで定期的に診療し続けることを想定しているのか、それとも数回に１回は外来などの対面診療を行うことを想定しているのか。

（事務局）少なくとも３回に１回程度は対面診療を行う必要があるのではないかと考えている。厚生労働省や日本医師会の指針などにおいても対面診療を併用する必要性について言及されている。
（金子委員）診療代金の収納については、患者からなるべく早く支払いたいと言われることも多く、口座引落などで対応している医療機関もあると聞くが、市ではどのように考えているか。石橋委員と同様に、採算性の視点を持って考えることは必要だと思っている。
（事務局）実証事業においては、次回の通院時に支払うこととしたが、心理的な負担を感じる患者もいると想定される中で、その場で決済できる方法があるかなどを今後研究し、改めてお示しできればと考えている。
（金子委員）遅延できない訪問診療というよりは、定期外来の延長として患者や医師の負担軽減を目指すことを目的としているという理解で良いか。
（事務局）その通りであるが、３回に１回の対面診療を外来ではなく訪問して在宅で行うケースもあると思う。医師の判断によるものとなるが、国内の例として、従来は月２回の訪問診療を行っている患者の状態が安定している場合に、２回のうち１回をオンラインで行っている事例もあると聞いている。

（２）診療所の再編に向けた取組について
事務局より資料に基づき、説明した。

（西委員）市立３診療所を管理している。各診療所の開所日や診察時間が異なっている点は課題である。診療所の再編にあたって、開所日を月曜日から金曜日として土日休みとする、診察時間を午前は９時から正午まで、午後は２時から５時までとするなど統一することを検討してほしい。
　また、診療所を統合した場合、医業収益は従前の２つの診療所を合算した額よりも減るのではないかと思う。医療資源や財源の効率的な活用とあるが、医師が２人になるのであればそれに見合った医業収益をあげられるくらいの機能を準備しないといけない。採血による検査結果を自院で提供できるなどや、超音波や内視鏡を活用して検査機能の向上を図ることで医業収益をあげられるような施設になると、経営の改善につながる考える。
（事務局）医療資源や財源の効率的な活用を基本方針の一つに掲げているところであるが、まずは中山間地域において誰もが安心して医療を受けられる体制を確保することが第一であり、経営の赤字解消が最優先事項とは考えていない。
　開所日や診察時間については、旧県立の市立３診療所と旧町立の国保３診療所を本市で所管するようになったため、従前からの体制を引き継いでいる部分もある。また、敢えて開所日をずらすことで地域住民が月曜日から土曜日まで受診できる体

制としてきた経過もある。一方で、医療従事者の確保の困難さも感じている。委員からの意見を踏まえ、検討を深めていきたい。

（石井委員）今よりも５年後のあるべき姿を考えたい。人口減少に伴って路線バスの運行本数が減り、免許を返納する高齢者も増えることにより、通院が困難な人が増えることが危惧される。地域で民間の医療機関が走らせている巡回バスのような通院手段は必要だと思う。一方で、公共交通と競合するといった見方もでき、これは全国的な中山間地域の課題である。広い視野を持って考えていくべきである。

（事務局）今回は、路線バスの現状や、市が取り組んでいる施策を資料としてお示しした。ご意見については、持ち帰りたい。

（青山会長）けんこう号について、利用が堅調とのことであるが、どのような人が利用しているか。

（事務局）介護予防事業の実施を目的に、自分で移動できる方が中心である。

（青山会長）利用者の層が徐々に固まってきている状況か。

（事務局）利用者数とともに、登録者数も徐々に増えている状況である。

（岩城委員）百歳体操を７～８年行っており、けんこう号も当初から利用している。マイクロバス１台だったけんこう号が、昨年１１月からワゴン車３台になって便利になったことで、介護予防事業に参加する利用者の楽しみが増えていると感じている。けんこう号を通院などにも積極的に活用し、通院の帰りに参加者同士の集まりにも参加できると楽しみが増え、元気になれると思う。元気になって前向きになれば、医療機関にかかる必要性が減ることにもつながると思う。

　オンライン診療についても、百歳体操を行う場など、元気な人が集まる場で周知してはどうか。いざ医療が必要になった時に説明されるよりも、日頃から知っていた方が良いと思う。

（西委員）廃止となった診療所の患者が、統合先となる診療所に定期的に受診する必要が生じることも踏まえ、オンライン診療の推進だけでなく、通院手段を確保することも必要だと思う。

（青山会長）通院手段の確保については、移動に困難を抱える患者もいることを前提に、けんこう号の活用だけでなくボランティア輸送等も含め、全体で考えて検討していく必要があると思う。

（石橋委員）地域づくり部会では、若い医師に「ぜひ働きたい」と思ってもらえるようなに地域になりたいと考えている。現在の藤野診療所の医師は、積極的に地域に出向いて対話をしてくれる。医師本人も、診療所の外での人と人との繋がりを魅力に感じてくれているのだと思うが、若い医師が地域に求めることは何か、というのを医療者側から教えてもらえるとありがたい。

（金子委員）とても大切な意見だと思う。静岡県の郡部の公立診療所で勤務していた経験から、地域とのつながりを体験できることや、医療機関が少ない地域だからこ

そ様々な症例を経験できること、教育的な要素があることなどが大切。それが医師本人に伝わって、自身の成長につながると理解されれば若い医師がコンスタントに来る地域となると思う。若い医師を呼び寄せるような地域の取組として、診療所の中だけでなく、他の職種や地域住民と顔の見える関係の中で活動できることをアピールしていくことは大切だと思う。

（青山会長）相模原市の寄附講座の修学医師に対しても、家庭医療学を専門にしている医師に指導を仰ぐ取組を強化し始めたところである。医師として疾患を診ることができれば良いということではなく、地域に魅力を感じて働くことができる医師を一人でも多く育てていきたいと考え、新たな試みに取り組んでいる。

（事務局）医療従事者の確保が困難な地域であることは課題と把握しているが、市としてもこの地域に魅力に感じてもらえるようなアピール方法も検討していきたい。

（関戸委員）住民として是非そうしてもらいたい。現在、千木良診療所は半年で、青根診療所や青野原診療所も１年で医師が変わってしまう。診療所の再編により医師２人体制となった際に、医師は長くいてもらえるのかということを心配している。

（青山会長）医師を育成する立場から申し上げると、若い医師は、専門医の取得を目指す研修プログラムをこなしながら医療機関に従事している。現時点においては、同じ医師を同じ診療所に長期間配置することは難しいが、修学医師が増えて余裕が生まれた段階でより良い配置体制も組める可能性もある。ご理解をいただけると幸いである。

（西委員）医師が定着するほど受診者数は増える傾向にある。患者と医師の信頼関係によるところも大きく、地域が求めるのも理解できる。一方で、若い医師が専門医取得に向けたプログラムをこなす必要もあり、難しいところだと思う。

（金子委員）静岡や沖縄で診療していた頃は、先輩と後輩の医師が２人体制で診療所に勤務する場合に、先輩は複数年連続して従事し、短い期間で異動する後輩を指導する体制もあった。相模原市においても、修学医師がプールされてきたら徐々に診療所にいる医師が定着できる可能性もあるのではないかと思う。

（青山会長）医師２人体制となる頃に、より地域に見合った体制が組めると良い。引き続き尽力していきたい。

（事務局）本議題について、通院手段の確保や医師確保についての意見が多く交わされたところであるが、藤野診療所の再整備については、現在の診療所の状況も踏まえ、市の内部でも検討を進めている。令和１０年度の開所に向けてスケジュールを組んでいるが、今後も引き続きご意見をいただく機会を設けたいと考えている。

（石井委員）先日開催された市民生委員児童委員協議会の会議の中で、熱中症対策の話があった。熱中症警戒アラートが頻発される中、民生委員活動も制限されている状況である。マイカーで通院できない年配者にとっては居宅と医療機関との往復に負担がかかる状況にあり、医療機関の今後を考える際には、例えばクーリングシェ

アが可能なスペースを設けるなど、待合機能を充実させることも検討すべきだと思う。

（３）検討会の進め方について

事務局より資料に基づき、説明した。

（青山会長）委員からいただいた一つ一つの意見を集約できる部分もあれば、少数でも大切な意見もある。どういった順序で手をつけていくべきか、どれくらいの時期にどれくらいの期間で行うべきかというものを具体的に考えていく必要がある。次回を目途にまとめたものを示したい

４　閉会

以　上

中山間地域医療検討会　委員出欠席名簿

（五十音順）

氏　　名	選　出　団　体　等	出欠
青山（あおやま）　直善（なおよし）	学識経験者（北里大学医学部総合診療医学　主任教授）	出席
石井（いしい）　冬樹（ふゆき）	相模湖地区地域ケア会議地域づくり部会	出席
石橋（いしばし）　了知（りょうち）	藤野地区地域ケア会議地域づくり部会	出席
岩城（いわき）　美野（みの）	津久井地区地域ケア会議地域づくり部会	出席
潮（うしお）　環（たまき）	相模原市訪問看護ステーション管理者会	出席
金子（かねこ）　惇（まこと）	学識経験者（横浜市立大学大学院データサイエンス研究科　准教授）	出席
黒沢（くろさわ）　愼五（しんご）	さがみはら介護支援専門員の会	出席
佐々木（ささき）　由加里（ゆかり）	公募委員	出席
関戸（せきど）　ヒデ子（ひでこ）	公募委員	出席
土肥（どい）　直樹（なおき）	相模原市立国民健康保険診療所	出席
西（にし）　八嗣（やつし）	相模原市立診療所の指定管理者	出席
原田（はらだ）　工（たくみ）	相模原市医師会	出席
布施（ふせ）　厚子（あつこ）	相模原市歯科医師会	出席
森田（もりた）　育子（いくこ）	相模原市薬剤師会	出席
森田（もりた）　亮（りょう）	相模原市病院協会	欠席